

2014年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	電気通信工学科							
科目名	基礎数学							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/必修科目(情報システムコース)							
担当者	喜屋武 毅							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な角での三角関数の値がわかる。(A1) ・単振動の物理量(振幅、周期、周波数、位相)がわかる。(A1) ・複素数をいろいろな表示に変換できる。複素平面上での扱い方に慣れる。(A1) ・行列の和、差、積の演算ができる。2次、3次の行列式を計算することができる。(A1) ・行列と行列式を使って連立1次方程式を解くことができる。(A1) 							
日程と内容	04/07 導入講義 04/14 一般角と三角関数の定義 04/21 微小角の三角関数・弧度法 04/28 加法定理・合成関数 05/12 複素数・複素平面・極座標表示 05/19 複素平面・複素数の性質・(演習1) 05/26 ド・モアブルの定理 06/02 複素数の乗根 06/09 マクローリン展開・オイラーの公式 06/16 ベクトルとスカラーの演算 06/23 ベクトルのスカラー積、(演習2) 06/30 ベクトルのベクトル積 07/07 行列とその演算・2次、3次行列式 07/14 小行列式と余因数・同次方程式 07/21 総合演習・(演習3) 07/28 定期試験							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	講義内容については、達成目標のいずれの項目も概ね達成している。							
反省点	学力格差から一部の学生には、授業内容が平易になりがちで、授業内容に興味を引き出せていない状況があったかも知れない。学生の興味を引き出せるような講義になるように改善に努める。また、成績の上位学生や数学が苦手な学生への配慮なども併せて行い、習熟度により演習課題を課すなどの工夫をすべきであった。							
来年度の計画	授業内容に関しては現状の削減予定はないが、講義内容や演習課題を精査して講義で興味を引出す工夫や学生の理解度が深まるように努め、習熟度により講義中の演習課題を課すなどの工夫を施す。							
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの結果から授業の理解度を図る項目において、結果が芳しくなかった。前年度より学生の学力格差が拡大した感が否めず、授業スピードや内容に満足していない学生も見られたようである。また、今年度の学生の特徴として、予習や復習をする学生の割合が増加傾向にあるので、演習問題を課すなどして上位学生の満足度を高めるように工夫に努める。							
履修登録者数	65名	定期試験受験者数	62名	合格者数	59名	合格率	95%	